

特別分科会②【高大社連携キャリア教育】

高大社連携フューチャーセッション成果報告

～生徒・学生実行委員会によるサードステージを振り返る～

【報告者】 2022 年度高大社連携フューチャーセッション実行委員

【コーディネーター】 杉岡 秀紀（福知山公立大学 地域経営学部 准教授）

【コーディネーター】 乾 明紀（京都橘大学 経済学部 准教授）

【オブザーバー】 滋野 哲秀（元 龍谷大学 文学部 教授）

2020 年以降、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として、教育現場ではオンライン授業の導入が進められてきた。この先の見えない時代の中で、今年度の高大社連携フューチャーセッション※（以下「F S」）も引き続き次代を担っていく高校生・大学生から構成される実行委員会形式を採用し、オンラインと対面を両方活用しながら当日までの企画づくりを行った。本分科会ではこの高大社連携F Sの生徒・学生実行委員会サードステージの成果を報告する。

※「高大社連携フューチャーセッション」とは、高校生・大学生のキャリア発達を目的とし、世代や学校の違いを超えて、未来志向で対話・交流する高大社連携キャリア教育プログラム。

概 略

当日はまずコーディネーターの杉岡氏より、生徒・学生実行委員会によるサードステージとなった 2022 年度の高大社連携F Sの概要紹介、動画や写真紹介、アンケート（参加者・実行委員会・所属高校教員）結果報告があった。とりわけ 2022 年度初めて取り組んだこととして、①対面によるオリエンテーションの実施、②模擬F Sの実施、③Tシャツの導入の3点が紹介された。

次に実行委員の4名（副実行委員長・私立大学3年、広報部長・公立大学2年、広報委員・公立高校1年、広報委員・私立高校1年）の登壇のもと「学生実行委員をやってみて身についた力はあるか？」「企画から実行までやってみてぶつかった壁とは？ またそれをどう乗り越えた？」「F Sに参加してみて、結果としての自分（今の自分）と理想としての自分（未来の自分）に変化（ギャップ）はあった？」「来年度に向けて提案」の4項目について、パネラー間で活発な意見交換（パネルディスカッション）があった。

その後、会場参加者（フロア）との質疑応答があった後、最後にコーディネーターの乾氏、杉岡氏、オブザーバーの滋野氏の3名から講評があり、閉会した。

全体討論の内容

会場参加者の高校教員から1問だけ質問が寄せられた。質問内容は「今年の本F Sや企画・広報の意図（ミッション）を改めて説明してください」というものであり、副実行委員長の大学生

から回答を行った。

全体の総括としては、コーディネーターおよびオブザーバー教員からあった当日の講評の紹介に代えたい。

- ・実行委員として関わることで「自分はこうなんだと思う自分（結果としての自分）」と「こうなりたいと思う自分（未来としての自分）」という2つの自分ができると思う。この2つの自分を創りながら歩むことがキャリア発達である。葛藤もあるだろうが、今後もこの2つの自分を創り続けていくことが大切。
- ・現代はVUCA時代。そのような先が読めない難しい時代に生きているがゆえに、成長をしようと思うのであれば異質な人との交流が重要になる。FSとはそのような交流機会の1つになっているのではないか。
- ・これからの学びは「越境」「楽習」「共感（エンパシー）」がキーワードであり、これは学校の中だけでは学べない。FSの実行委員の経験を通して、この重要性や必要性を実感できたのではないかな。

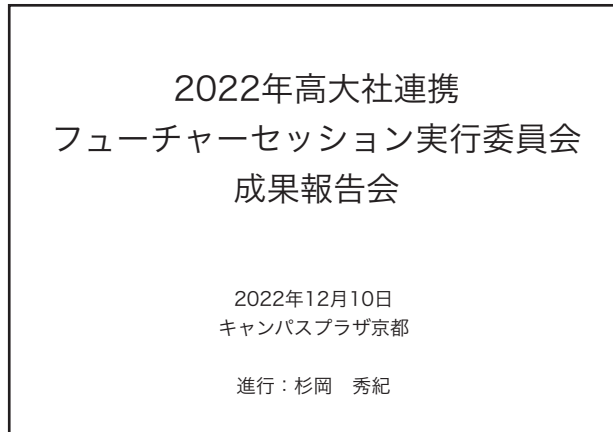
到達点と今後の課題

アンケートによれば、会場・オンライン共に100%の満足度（満足・やや満足の合計）であった。また参加者からは「学生の皆さんの取り組みがよく分かった」「企画概要から見えない苦労や達成感などが感じられた」「実際に体験した高校生、大学生の声が聞けた」「大学生・高校生それぞれが、チーム内で起きていたことやその意味を、客観的かつ冷静に分析しながら振り返っておられるのが印象的だった。また、成果報告・リフレクションの場の進行方法も、大変勉強になった」とのコメント（定性評価）も頂いた。したがって、分科会に参加いただいた方の満足度は高かったと言える。

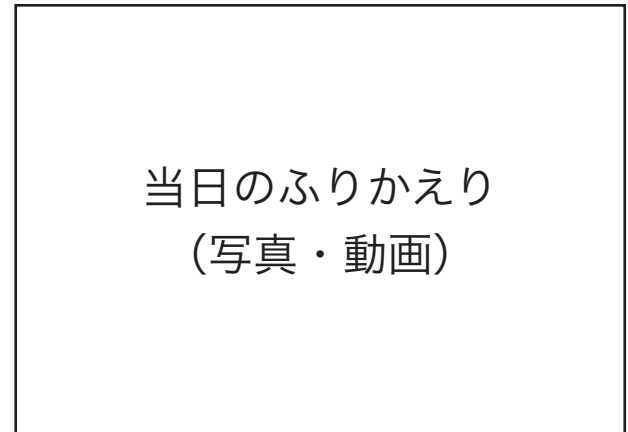
他方で、申し込みそのものは40名強あったにもかかわらず、当日参加者が10名弱であったことを考えると、ハイブリット開催とはいえ、キャリア教育企画の成果報告会を特別分科会とする企画そのもののニーズがどこまであるのか、いま一度検証が必要であることも事実である。この点については今後の課題としたい。



スライド1



スライド2



スライド3



スライド4



スライド5



スライド6



スライド7



スライド8



スライド9

【今年初めて取り組んだこと】

- ①対面オリエンテーション
- ②模擬フューチャーセッション
- ③Tシャツの導入

※ ZoomやSlack活用、リサーチクエストは昨年度より導入。

スライド10

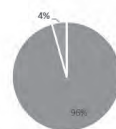
アンケート報告

スライド11

参加者編

スライド12

満足度	満足度	回答数	割合
満足		22	96%
やや満足		1	4%
どちらでもない		0	0%
やや不満		0	0%
不満		0	0%
合計		23	100%



- * 満足
- * やや満足
- * どちらでもない
- * やや不満
- * 不満

満足度は「100%」

他者への推奨度

推奨度	回答数	割合
勧めたい	21	91%
やや勧めたい	1	4%
どちらでもない	1	4%
あまり勧めたくない	0	0%
勧めたくない	0	0%
未記入	0	0%
合計	23	100%

- * 勧めたい
- * やや勧めたい
- * どちらでもない
- * あまり勧めたくない
- * 勧めたくない

「96%が勧めたい」と回答

[illegible]

その他、感想や要望（次回取り上げたいテーマや「ゲスト」の希望、改善してほしい点など）	
高校1年	「ヤングケアラー」を聞き取ったところからいよいよテーマを希望します。これに実用可能なくらいのかく分らないものでも深めるために学びたいです。
高校1年	改善案：テーマに関する授業のスケジュールをそろえるように指示してほしいです。（個人でできるとなかなかに社会で変容させるべき点なのか） 次期希望するチーム・LGBTQについて！
高校2年	つくり良は、つくる責任 大生をたもてます！ 利益あるものが主體的に社会を引っ張っていく必要があるのではないかと。
高校2年	周りの大学の方や、先生方、ふっせん会のみなさんのおかげでこの日本と自分にとってとても良い刺激になりました。今後、自分にも良い影響を与えられるような意見や考えをもたせたいと思っています。ありがとうございました。
大学2年	ふっせん会の方やヤングケアラーの方などに参加したいと考えています。
大学2年	スタッフの皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。
大学2年	文化についてのテーマ、異文化の違い、地域住民の不満など
大学2年	様々な経験が積まりました。今回の反省を含め、今後活かしていきます。
大学2年	様々な課題を取り組む中で、行政関係者、当事者、NPOなどから必要となる多角的な議論が必要との意識。（歴史も教わっても、今の状況を知ることは出来ず、当事者の苦しみや意思の通じ、政策を通じて、それが今の社会とどうなるかを想像し始めるのが教育本来の姿ではないでしょうか？）政治的発言禁止、教師の政治的中を警戒している。これを打破して、多くの教師が政治・思想を深く知り理解することによって支えられたい。具体的な議論を持ってこそ実際に参加していただくのにあたらないのか判断がつかない。意見を述べた上で「自己決定」に基づいて選択した選択理由のある結果票を上げる理路だと、そこまで怪れない「現実的な考慮」として解決できれば、検討したい。
大学3年	テーマ「近代化の物語と伝統観—現代の若き現況について知る—」 ゲスト：大学の教授の方
大学3年	スタッフの方、先生方、ふっせん会の方々、このような機会を開けてくださり、ありがとうございました。今日参加によかったです。
大学3年	椅子の位置的に、メモを取りながら発表者の方を向いて話せる間として少しづつあったので、バンパーを買いました。
大学3年	学生本業に戻ります。
大学3年	とても楽しかったです！
大学3年	テーマ「シンガポールマザー・シンダフルフォーザワールド」
大学3年	実行委員みなさん頑張りました！！

[illegible][illegible]

ゲストの講師
西山由加里様、森田香陽様、山中夏月様(特定非営利活動法人うんせいの会 事務局)

運営の方たちの環境整備、運営があったからこそこの成果だと思います。参加者のほとんどが皆対面的な血気盛んなやり取りになるよう、事前、当日、事後の準備が整えられました。みなさんのお披露目、ヤングケアラーのこと、命のことに触れていた方が多かったのだと思います。本席にお話してごいました。

「ヤングケアラーを知る」とはどういうことなのか、みなさんと対話を重ねながら再確認したことが新たな発見がありました。

ヤングケアラーによって、つくづく驚いたり感じる環境でも、ポジティブ、ネガティブな気持ちはあるということ、ヤングケアラー自身の誇りにについて知っていた方が年々増えています。

今後、皆さんそれぞれ自由に選べる中で、制度・政策に臨むことと、行政職員や現場で働く様々なひとの想いに触れると思います。そのような触れ合いのなかで、書きにくいことの一つに、「子どもたちの声なき声」ということです。支援者からみて制度が必要だと判断しても、本人は「支援」を必要としないこともあります。特に、子どもに対しては、本人の意に反する支援もよく存在します(度々変わり、その後の関係に影響することもあります)。

ただ、緊急性、重大性の高い子どもの状況は常にそこにあります。法令に基づきどの様な支援が可能か？現在の法令に不備はないか？その子の本人の想いとはどこにあるか、繰り返しになりますが、子どもたちの声をきながら、子どもたちの最善の利益を子どもたちと一緒に追求してほしいと願っています。

「子どもたちの声を聞く」 ことの重要性

実行委員編

参加理由	回答数	割合
先生からの紹介・推薦	5	56%
友人知人の紹介	2	22%
学内掲示・案内を見て興味	0	0%
大学コンソーシアム京都のIPを見て興味	1	11%
昨年も参加して興味	0	0%
「KYO-DENT」を見て興味	0	0%
その他	1	11%
合計	9	100%

先生からの紹介・推薦
友人知人の紹介
学内掲示・案内を見て興味
大学コンソーシアム京都のIPを見て興味
昨年も参加して興味
「KYO-DENT」を見て興味
その他

満足度

満足度	回答数	割合
満足	6	67%
やや満足	2	22%
どちらでもない	1	11%
やや不満	0	0%
不満	0	0%
合計	9	100%

- ・満足
- ・やや満足
- ・どちらでもない
- ・やや不満
- ・不満

約9割の満足度も
どちらでもないの1割がきになる。

他者への推奨度

推奨度	回答数	割合
勧めたい	5	56%
やや勧めたい	3	33%
どちらでもない	1	11%
あまり勧めたくない	0	0%
勧めたくない	0	0%
合計	9	100%

- ・勧めたい
- ・やや勧めたい
- ・どちらでもない
- ・あまり勧めたくない
- ・勧めたくない

同じく約9割の推奨度も
どちらでもないの1割が気になる。

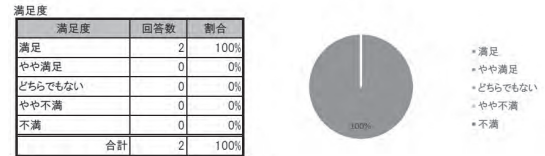
東宝学園由	
■通星	
高校1年	今までの自分と違って一歩踏み出して成長しているという時間を使えることができました。
高校1年	フューチャレーションを通して企画・広報の仕方について知ることができ、またヤングリーダーについて知ることができました。
大学3年	社会情勢について考える良い経験になりました。
大学3年	サークルで活動するうちに何かに大げかに知ることができた。
大学3年	何事でも、出来るだけ自分のペースで一つ一つ実行できるように努力を学び、自身の大きな成長につながった。
大学3年	1からイベントを企画する難しさを、それに対して頑張ると取り組む良いものをつくる体感ができた。
大学3年	実行委員として活動し、なげば得られなかった学びが沢山ありました。この半年間は、この先きっと何度も思い返すと思います。
■大学直前	
高校2年	予定や適応環境の問題が発生して、なかなか会議に参加できず、本当に申し訳なかったし、そこが今残りたいと思います。でも今日の場でたくさんの方からの意見から学び自分の中であるほどにたぐんあって、参加してよかったと心から思いました。
大学2年	自分たちで運営する難しさ、達成感が味わえます。
■どちらでもない	
大学3年	実行委員長としての仕事が無理にできたとはいえないから、実行委員としての体制を積み重ねていってしまったり、正副が主導で行えた気がしない、チームにならずにやっていたからオンラインのメンバー全員体の意見と取りあえないと思える気がした。

[illegible]

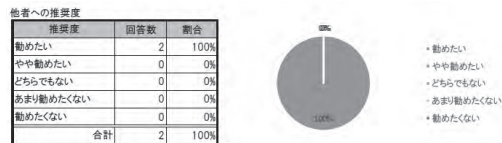
スライド 25

(参考) 所属高校（教員）編

スライド 26



スライド 27



スライド 28

満足度理由

プロジェクト参加を通じて、生徒の主体性・積極性が増したため、
希望が叶えやすくなり、自分らしい生き方が、じつとわかってきました。コンテンツを考えたり、世代を超えて交流できることに貴重感の
場を感じます。

実行委員会参加時の生徒への期待

外部の方々と関わることでコミュニケーション力を高め、視野を広げてほしい
主体性、協働する力が育まれる。いろんな世代、人と出会い自分の世界を広げる、ということを期待しました。

参加当初と比較した生徒の変化や成長

プロジェクト参加を通じて、生徒の主体性・積極性が増した。10/4の授業で、クラス全員の前で講演内容や自分の分面について発表してもらったが、
自信は不足し、自分の言葉でしゃべることができた。

授業でなすめいと協働する環境でも、存在感を感じるようになった。

今後の改善点・要望など

今年も大変お世話になりました。途中経過等も丁寧にメールで知らせてくださり、有り難かったです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
来年度も是非お声がけいただければ幸いです。

1) その他、感想など

「シャツ」を贈るのがいいなと思いました。コミュニティへの当事者意識が生まれるのかなあと推察します。オレシにも意味を込めたので、ようか。
来年度も夢見ることができるようにしたいと思います。ありがとうございました。

スライド 29

パネルディスカッション

スライド 30

Q1.学生実行委員を やってみて身についた 力はどんな力？

スライド 31

行動力

スライド 32

対応力

スライド 33

リーダーシップ
ファシリタ

スライド 34

自分を信じる力
根拠ない自信も大事

スライド 35

Q2.企画から実行までやって
みてぶつかった壁とは？
またそれをどう乗り越えた？

スライド 36

初めてリーダーシップ
を発揮したこと。
親の助言・伴走

スライド 37

高校生との時間調整

スライド 38

組織のあり方の役割分担
任せるリーダーシップ

スライド 39

集客の難しさ

スライド 40

Q3.FSに参加してみて、結果
としての自分（今の自分）と
理想としての自分（未来の自
分）に変化（ギャップ）は
ありましたか？

スライド 41

フラットな立場で参加
したかった。上下関係
をどう乗り越えるか。

スライド 42

聴くことの重要性を
知れた

スライド 43

発言できる人間に
なりたい

スライド 44

脱はずかり屋

スライド 45

Q4.来年度に向けた提案
があればお願いします。

スライド 46

集客をしっかりと

スライド 47

口コミの力
情報共有
リアルな関係づくり

スライド 48

良い雰囲気づくりの工夫
参加の場づくりの工夫

スライド 49

はじめの一步を大切に。
MVPが重要。

スライド 50

質疑応答

スライド 51

Q.本フューチャーセッションや企画・広報の意図を改めて説明してください。

スライド 52

講評

スライド 53

乾先生

スライド 54

キャリア発達

- 結果としての自分＝こうなりたいと思う自分
 - 未来としての自分＝こうなりたいと思う自分
- ⇒この2つの自分を創りながら歩むことがキャリア発達
- ⇒しかし、歩む過程にはいろんな葛藤がある
⇒葛藤しながら2つの自分を創り続けることが大切



スライド 55

滋野先生

スライド 56

1 成長するとき

- 異質な人との交流⇒新たなネットワーク
- 自分の言葉で外化すること
- 交渉力
- 段取り力
- 調整力
- リーダーシップ PM理論
- 問いが生まれる



スライド 57

2040年までに日本の社会を大きく
捻じ曲げかねない4つの圧力

- ① 国内における高齢化と少子化
- ② 国際社会の地殻変動と中国の台頭
- ③ グローバルな世界を産み出した
「デジタル革命」
- ④ 地球温暖化と自然災害



スライド 58

杉岡より

スライド 59

不確実な時代を生き抜くために
必要なスキルを越境から学ぶ
「楽」習機会
＋
思わず参加したくなる
エンパシー（共感）の仕掛け